

第1章 要請の背景

マケドニア＝旧ユーゴスラビア共和国（以下「マ」国とする）は、バルカン半島のほぼ中央に位置し、北はユーゴスラビア連邦共和国、東はブルガリア共和国、南はギリシャ共和国、西はアルバニア共和国と国境を接する。面積約 2,571千ha(長野県と岐阜県を合わせた面積とほぼ同等)、人口約2,000千人(長野県のみとほぼ同等)の海岸を持たない内陸国で、国土は山地と高原からなる。アルバニア共和国との国境沿いには湖が連なり、中央部にはギリシャ共和国を通過してエーゲ海に注ぐアクシオス川が流れる。気候は全体的に大陸性気候で、平均気温は1月で0.0、7月で23.0と年較差が大きく、年間降水量は約 500mmと少ない。

1991年9月まで旧ユーゴスラビア連邦人民共和国（以下旧ユーゴとする）の中のマケドニア共和国だったが、マケドニア共和国内の国民投票で95%が「マ」国の主権確立を支持して旧ユーゴからの独立を宣言、同年11月に憲法が発効した。1992年3月には旧ユーゴ軍が撤退を完了し、無血で独立を果たした。他方、南に国境を接するギリシャ共和国が「マケドニア」という名称はギリシャ共和国の地方名であると主張し、この国名使用に強く反対したため「マ」国の国際社会での認知が遅れたが、1993年4月に「マケドニア＝旧ユーゴスラビア共和国」という暫定的名称で国連に加盟した。1994年2月にはアメリカ合衆国が同国を正式承認したが、同月ギリシャ共和国がテサロニキ港の利用を拒否し、これは内陸国「マ」国にとって事実上の禁輸措置となった。1995年9月「マ」国の国旗の一部変更により、ギリシャ共和国の経済封鎖は解除となり、ギリシャ共和国との関係正常化へ向けて部分的合意が成立した。また、1996年4月にはユーゴスラビア連邦共和国との関係が正常化した。1998年10～11月には総選挙の結果、53年ぶりの非共産主義政権が誕生した。

「マ」国は旧ユーゴのなかでも経済発展が遅れた地域であったが、元来国土の約半分が可農耕地・牧草地の穀倉地帯であり、主要作物については自給が可能で、輸出用商品作物の生産も可能である。停滞状況にある経済全体の発展を含む国家開発は、主要産業である農業の発展が最重要課題であるが、農業機械の不足及び老朽化、肥料の不足、農民（元々自作農が中心）の資金力の弱さ等の理由から、収量の低い伝統的な農業が営まれ、輸出はおろか自給が出来ない状況にある。また、NATO軍によるユーゴスラビアへの空爆の影響で、1999年3月以降、コソボ自治州から最大約250千人もの難民が「マ」国へ一時避難したこと、2001年3月にコソボ自治州からアルバニア系武装勢力が「マ」国内アルバニア系住民の自治拡大などを求めて国境を超えて攻撃を始めたことなどから同国は政治的にも混乱し、経済状況はより厳しいものとなっている。

このような状況のもと、農業機材の投入により食糧自給を目指して農業生産性を向上させるため、同国政府は我が国に対し、1997～2000年度に引き続き、農業機材の調達に係る無償資金協力を要請してきた。今年度計画で要請されている機材と数量は次頁表1-1に示すとおりである。

表1-1 要請機材リスト

項目	要請 No.	標準リスト No.	品目 (日本語)	品目 (英語)	要請 数量	単位	優先 順位	希望 調達先
農機								
	1	AT-TRQ4	乗用トラクター 40HP以上	Tractor 40HP or more	150	台	1	DAC
	2	リスト外	乗用トラクター 80HP以上	Tractor 80HP or more	60	台	1	DAC
	3	リスト外	乗用トラクター 120HP以上	Tractor 120HP or more	30	台	1	DAC
	4	リスト外	乗用トラクター 160HP以上	Tractor 160HP or more	38	台	1	DAC
	5	TI-BP4	ボトムプラウ 16"x2	Bottom Plow 16"x2	150	台	1	DAC
	6	リスト外	ボトムプラウ 16"x3	Bottom Plow 16"x3	60	台	1	DAC
	7	リスト外	ボトムプラウ 16"x4	Bottom Plow 16"x4	30	台	1	DAC
	8	リスト外	ボトムプラウ 18"x4	Bottom Plow 18"x4	38	台	1	DAC
	9	HD-CBW3	普通型コンバイン(ホイール式・125HP以上)	Combine Harvester (Wheel type, 125HP or more)	28	台	1	DAC

本調査は、「マ」国が我が国政府に提出した要請書について国内解析を通じて選定資機材の品目・仕様等にかかる技術的検討を行うことを目的とする。